



♡♡七夕企画への参加ありがとうございました♡♡

今年も沢山の方が、参加してくれました。本当にありがとうございます。今年は「あの人の為に…」という願い事が多かったようです。開催期間7月1日～15日、用意した短冊160枚に対し145人の参加者でした。飾ってもらった短冊は、責任をもってお焚き上げします(^▽^)/

♡♡秋の夜長を本とともに♡♡

だんだんと暑さが和らいで、朝晩涼しくなってきました。お布団のぬくもりから離れられなくなりましたね～秋の気配がぐぐんと近く感じる瞬間です！そんな秋の様子を「秋の日はつるべおとし」という表現をする人もいます。これは、陽が暮れるのが早い様子を、井戸で水をくむ時に使う桶(=釣瓶)を井戸へ投げ落とすと早く落ちる様から表現した言葉です。長くなる夜は、自分の好きな音楽や飲み物や癒しグッズで空間をつかって、お気に入りの1冊で読書タイムというのも良いですよ！
こんなおすすめ本も図書館にはありますよ！



『君なら、越えられる。涙が止まらない、どうしようもない夜に』

著者：yuzuka

深夜のファミレスには、物語がある。パジャマ姿で泣いている子やオシャレなワンピースを着て、じっと窓の外を見つめている人。みんなが、「どうしようもない夜」を越えようともがいているんだ。ただどドリンクバーで何回コーヒーをおかわりしても、その日の涙を終わらせる答えを出せないこともある一本よりー自分が思っているより他人はいろいろな深刻な事情を抱えているのです…



【漫画】『SLAMDUNK完全版』 著者：井上和彦

「黒子のバスケ」「あひるの空」「DEARBOYS」など数あるバスケット漫画で、これほどバスケットボールというスポーツに火をつけたアニメは他にはないでしょう！桜木花道という喧嘩しか知らなかった主人公が、仲間や恩師と出逢いひとりのスポーツマンへと成長する驚異の4ヶ月間の物語、この大ヒット作品をまだ手に取った事のない人はぜひ！本高図書館で読んでほしい！



『転生した大聖女は、聖女であることをひた隠す』 著者：十夜

巷で話題の“転生系”ストーリー！非常に多くの漫画や小説が作られていますね～今回新しく入荷したのは、かつて国の為、国民の為に力を揮っていた伝説の大聖女が、力をそのままに後世の時代で騎士の娘として生まれ変わる。聖女時代、魔王討伐の際に「聖女として生まれ変わったら殺す」と魔王の右腕に言われた事を思い出し、ひたすら目立たず活躍しまくるお話です(o^-^o)



『生を祝う』 著者：李琴峰

女性の社会進出が進み、共働きの親が珍しくなくなった現代にただ一つだけ、時代が変わろうが文明が進もうが変わらない事がある、それは「親が子を産む」という行為だ。そこに生まれてくる子の意思はない。それもそうだろう、胎児との意思疎通の技術なんてこの世には存在しないのだから。——でももし、その技術が生み出されて、この世に生まれたいか、この親の元に生まれたいか、胎児の意思で選択出来たら…この世界はどう変わると思いますか？この小説は、胎児の意思によって産めるか否かが決まる世界を描いた作品です、ラストできっと「えっ！」と驚くでしょう！

就職試験・大学受験を控えている人へ！！～新着本も含めて紹介します～

- 📖『コミュニケーション力を高めるプレゼン・発表術』著者：上坂博享
- 📖『書き方のコツがよくわかる小論文頻出テーマシリーズ
～医系・学際系・理系・看護系～』著者：神尾雄一郎他
- 📖『小さな会社でぼくは育つ』著者：神吉直人
- 📖『おもてなしの経営学』著者：小野雅代
- 📖『1日1分文章力がなくてもスラスラ書ける小論文の超書き方講座』著者：石橋知也
- 📖『「最強の新人」と呼ばれるための1日60秒トレーニング』著者：田中和彦・・・などなど



すき間時間や勉強以外の時間を持って余している人へ！！

- 🌸『自分を変えたい』著者：宮武久佳
- 🌸『わたしのあなたの涙になりたい』著者：四季大雅
- 🌸『泣きたい夜の甘味処』著者：中山有香里
- 🌸『その本は』著者：又吉直樹/ヨシタケシンスケ
- 🌸『腹を割ったらちがが出るだけさ』著者：住野よる
- 🌸『傷痕のメッセージ』著者：知念実希人
- 🌸『86-エイティシックス』著者：安里アサト
- 🌸『くるまの娘』著者：宇佐見りん
- 🌸『なぜか好かれる人の「言葉」と「表現」の選び方』著者：牛窪万里子

※書籍情報及び書籍画像は「全国書店ネットワークe-hon」より参考・取得
 ※間違い探しは、少年写真新聞社『学校図書館お話・文学間違い探し素材集』より引用

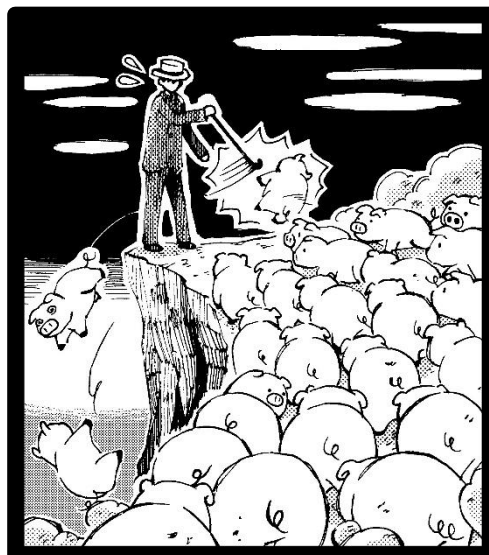
名作間違い探し

第6回『夢十夜』 夏目漱石



さあチャレンジしてみよう！
 太枠の絵に5か所間違っている箇所があるよ、
すべてに○をつけて図書館へ行こう！
 (-ω-)さあ！今月も頑張ってみよう！

「こんな夢を見た」という印象的な書き出しで始まる本作品は、非常に短い10の掌編で構成され、1908年に朝日新聞に連載されました。愛する女性の死と再生を百合の花に託して幻想的に描いた第一夜。明治の世になぜか鎌倉時代の仏師である運慶が仁王像を彫っていて、名工の技術に感心する第六夜などどれも“夢”にふさわしい不思議なストーリーでユニークかつ奇妙な読後感が残ります。漱石の代表作といえば、近代人の自我を鋭く見つめた長編『それから』『こころ』などですが、こうした味わい深い短編も残っていて、文豪の意外な一面と漱石の物語世界の幅広さを感じさせます。司書さんの一押しは第三夜、幼子と子を負って歩いていく父親の他愛無いふたりのやり取りののすが奇妙な違和感を出しながら少しずつ変わり始める…。摩訶不思議がお好きな人にお勧めです。



今回の間違い探しは、
 ひとときわ奇怪な夢断第十夜
 のワンシーンが問題に
 なっています。
 内容が気になったらぜひ
 読んでみてね！